



講座 3 2015 12/3(木) **環境共生のまちを次世代に受け渡す** [基調講演] 平賀達也 ランドスケーププラス 代表取締役

ディスカッション [コメンテーター] 吉田幸司 吉田商事株式会社 西村勇吾 西村商店 竹中さち子 マイノリティコレクション名古屋店 [オーガナイザー] 森田紘圭 大日本コンサルタント株式会社

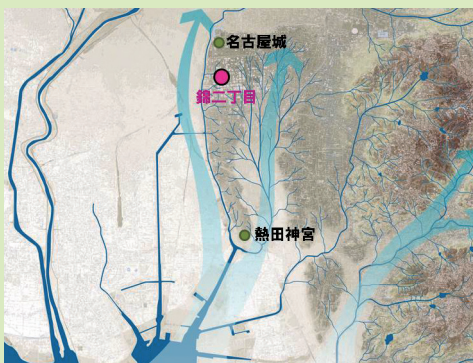
第3回は、次世代に受け渡すためにふさわしいまちや、まちづくりのあり方を探るため、ランドスケープ・プラスの平賀達也氏に、二子玉川再開発や豊島区役所再開発などのプロジェクト紹介を通じて次世代に残せるランドスケープや仕組みづくりをご講義いただきました。



▲平賀達也氏

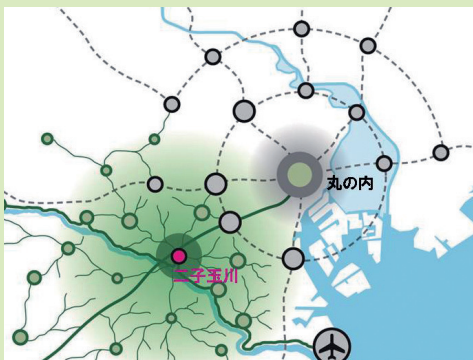
ランドスケープとは、急速な都市化を通じて失ってきた土地や自然と人間とのつながりを「社会的共通資本」として見つけ、結びなおし、可視化するつながりの科学です。冒頭、縄文時代に振り返り、名古屋市の大部分が海であったころから、

名古屋が誇る地形構造を グリーンインフラとしての環境基盤へ



©ランドスケープ・プラス

東京が誇る多摩川流域を ブルーインフラとしての生命基盤へ



©ランドスケープ・プラス

重要なくらしの拠点であった錦二丁目地区でどのようなまちを実現するか、急速な都市化が進む世界に、先進地として何を発信するか、強い問題提起を投げかけました。

その実現のヒントとして、二子玉川再開発や豊島区役所再開発などの紹介をいただきました。二子玉川再開発では、一極集中が進んできた東京において、その周縁



▲コメンテーター(左から、吉田氏、西村氏、竹中氏)

から新たな文化を発信することを目指しています。周囲の生命基盤をつなぎ、クリエイティブな暮らし、更には子供たちが自分たちを取り巻く環境を学び、経験できる場として機能するためのデザインや仕組みづくりが紹介されました。ここでは、単に文化や歴史の痕跡を保存するのではなく、エコミュージアムとして地域の生きた環境や文化を、地域の手によってつなぎ、学び、外に発信することが目指されています。豊島区役所再開発では、豊島区のもとあった生態系を回廊上の立体緑化で再現するとともに、小学校での体験授業などのプログラムも積極的に実施しています。単に設計・計画を行うだけでなく、開発後も関係者が連携して関わっていくことの重要性をご講義いただきました。

講義の後は錦二丁目働く3人のコメンテーターを交えて、「次世代に何を受け渡すか」をテーマに、熱い議論が行われました。竹中さんは、「いいまちは人しだい、自然と社会の交わる人間臭いまちを実現しよう」。西村さんは、「つながりの豊かさや時間がユックリ流れるライフスタイルを」。吉田さんは「子どもがホントの自然や文化に触れる状況づくり。海からお城に向けての風の道を、木造のマンションやビルを」「日本社会が抱える難題を縦割りではなく、横つなぎに複合的に解きほぐし発信しよう」。地区で広げられる都市の木質化プロジェクトを例に、子供だけでなく大人たちも交わって、本当の暮らしの経験や実感がつなげられるまちの実現と、そのための仕組みづくりが議論され、まちに関わる人みんなが次世代につなぐまちをつくる覚悟が共有されました。

パネルディスカッションより

Q1 コメンテーターの方々へ伺います。今の錦二丁目に対する印象や今後の錦二丁目に対する期待していることを教えてください。

A ●このまちは、「気軽に来て、買い物をして、コーヒーを飲んで帰る」みたいなリラックスした行動ができるまちだと思っています。このまちの人たちが持っている人間臭さがベースにあるまちづくりが進めばよいと思います。(竹中氏)
●長者町で仕事をしていると時間が経つのが早いと感じます。もっと時間がゆっくり流れるライフスタイルが実現できるといいと思います。(西村氏)
●都市の木質化の活動を通じて、まちなかで自然を感じられるようになってきていることが良い。平賀氏の講演を聞いて、子どもが本当の自然や文化に触れる状況づくりが大切だと感じました。また、錦二丁目のまちづくりを日本社会が抱える課題を解決する取り組みとして発信できるとよいと思い、ワクワクしています。(吉田氏)

Q2 コメンテーターの方は、みなさん共通して「人」に着目していますが、平賀先生は、「人」を含めた地域の資源をどのように活かすことが大切と考えていますか？

A ここは自分たちの場所だと思えることが大切だと考えています。そのためには「錦二丁目ではこれが大切だね!」と共感されるものを見つけていくことが大切です。その共感に人が集まり、子どもたちにも受け継がれると考えています。

Q3 錦二丁目です子どもたちに何を残したいですか？

A ●ゲームやインターネットではなく、実際に体験できる環境を。(吉田氏)
●ものを修理しながら代々使うライフスタイルと、それにあつた商業の仕組みを。(西村氏)
●自分で何かを生み出す、何かを目指して試行錯誤することができる環境を。(竹中氏)

Q4 [会場からの質問] プロジェクトが抱える課題を突破するきっかけは何であると感じますか？

A 公共空間に関していえば、つくること・使うことに対して、みんなが他人事であることが問題です。もっと自分ごとになるような取り組み方が大切だと考えています。

講座3の総括

じ 地元の環境インフラの価値化 ～グリーンインフラを育てよう! ～異空間(会所・路地)の継承再生	に 錦二丁目です日本の課題を 複合的に解決し発信しよう!
せ 世界とつながっている実感を取り戻そう! ～都市の木質化を通して森とつながろう!	つ つながりの豊かさや時間がゆっくり流れるライフスタイルを! 仕事にもいかそう!
だ ダイナミックな公共空間の運営・管理を地域で! ～みちの広場化を地元でイキイキと! 地元責任!	な 何よりも大切なことは子供が本当の自然や文化にふれること ～海から城にむけて“風の道”をつくらう! 木造建物を
い いいまちは人しだい! 自然的エコロジーと社会的エコロジーの融合	ぐ 具体的に自分たちです事をおこし、育む文化の風をおこそう!

→ **次世代につなぐ!** まちの価値づくりと生命の実感づくり

環境共生のまちを次世代に受け渡す

7つのKeyword

- 1 Managing public space dynamically** ——— 公共空間をダイナミックに運営管理する
- 2 Network between man-made environment and nature** 人工環境と自然のネットワーク
- 3 Open-ended process** ——— 未来に開かれたプロセス
- 4 Positive transform our town** ——— わたしたちのまちを積極的に変える
- 5 Quantitative and qualitative tools** ——— 量的・質的手段の活用
- 6 Repositioning area nature** ——— 地域の自然の再構成
- 7 Short-term action for long-term change** — 長期的変化を目指して短期的アクションを
延藤安弘氏(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事/錦二丁目まちの会所世話役)

低炭素まちづくりのA to Z

A～Eは講座1
F～L, Zは講座2
のキーワード

アンケートにご回答いただきました

社会的共通資本の丁寧な見つけ出しから大人も子供も変わる何かを仕込み、まちを変えるというより未来を変えるようなイメージが面白いし大切と感じた。
(錦二丁目地権者・事業者)

周辺地域との連携によりまちづくりを行うに当たり、生態系や風の道など多くの要因を加味することが大事である。
(行政職員)

私達の企業もまちづくりを考えるにあたり、緑の重要性、生態系を踏まえた持続可能性を持った都市の有り方を考えています。
(賛助会員)